



やまなしの青少年



目次

「家庭の日」「青少年を育む日」ポスター特選受賞作品と表彰式	1
会長あいさつ 声かけ・あいさつ運動 NPO法人等ネットワーク事業...	2
「家庭の日」「青少年を育む日」ポスター募集	
「インターネット・スマートフォンの安全利用」の講師を養成.....	3
「少年の主張」山梨県大会	4
「少年の主張」最優秀作品 青少年の非行・被害防止県民大会.....	5
子ども・若者の底力を信じて	6
県民会議へ期待すること 新規会員募集	7
青少年・青少年育成成功労者等の表彰 賛助会員と今年度役員 編集後記...	8

—子どもたちの健やかな成長を願って—

県民の皆様には、新しい年を清々しくお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃青少年の健全育成に関心をお持ち頂き、それぞれの立場でご尽力頂いております方々に敬意を表したいと思います。

当青少年育成山梨県民会議では、青少年が明るく健やかに成長することを願い、その環境を整えるために様々な事業を行っております。現在の青少年を取り巻く環境を見てみますと、必ずしも良好とは言えない状況にあります。特に最近は大人数の子どもたちへの関心が薄れている

ように感じます。こうした中、大人の果たす役割は大きなものがあります。そのためには家庭、学校、社会が緊密な連携を取りながら、子どもたちと積極的に関わっていくことが大切です。

青少年育成山梨県民会議では、青少年を取り巻く環境が向上するよう、これからも精一杯取り組んで参りますので、ご協力をお願い申し上げます。

平成26年1月1日

青少年育成山梨県民会議 会長 山田 文夫

県民会議の活動 2013

声かけ・あいさつ運動

県内5市町村で街頭キャンペーンを実施

地域のつながりが少しずつ弱まる中で、まずは大人から青少年に積極的に声をかけてあいさつをすることが、子どもたちの健全成長につながると私たち県民会議は考えています。新しく作ったベストを着用して、ティッシュを配りながら、南アルプス市・南部町・中央市・富士吉田市民会議と笛吹市推進協議会が県民会議とともに「声かけ・あいさつ運動」街頭キャンペーンを行いました。



櫛形生涯学習センターにて（南アルプス市民会議）



内船駅にて（南部町民会議）



セルバ御坂店にて（笛吹市推進協議会）

NPO法人等ネットワーク事業

ネットワーク会議開催で「連携」強化

青少年関係NPO法人等の団体が互いの活動状況を理解し合い、連携することで、より一層活動の場を広げることを目的とした事業を展開しています。今年はネットワーク会議を3回開催し、NPO法人等団体から約20団体と市町村民会議が参加しました。活発な情報交換や意見交換が行われ有意義な会となりました。

また、メーリングリストを活用した迅速な情報交換を図っています。

なお、来年2月にはシンポジウムを開催する予定です。



第1回会議風景



第1回の会議内容

- ・各団体の紹介（活動内容と抱える課題）
- ・今後の連携の方向性について等意見・情報交換

第2回の会議内容

- ・メーリングリストを活用した情報の共有について
- ・団体が抱える課題について
- ・グループセッション「市町村民会議とNPO法人との連携について」

「家庭の日」「青少年を育む日」ポスター募集 8,034点から入賞者が決定!

毎月第1日曜日は「家庭の日」、第3日曜日は「青少年を育む日」です。県民会議ではこの啓発活動の一環として、毎年、ポスター募集を行っています。今年、県下の小中高校生、一般から8,034点の応募があり、20点が入賞しました。表彰式は、

10月9日に県立青少年センターで行いました。特選・優秀作品は県民会議が発行する平成26年度版ポスターカレンダーに掲載し、関係機関などに配布されます。

特選

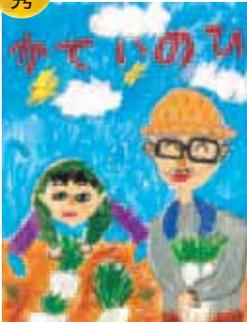
山梨県青少年
総合対策本部長賞(知事賞)



素和美小学校2年 古屋朋秀

優秀

山梨県教育長賞



神金小学校1年 小野祐大

優秀

青少年育成山梨県民会議会長賞



千塚小学校3年 藤田基希

優秀

青少年育成
山梨県民会議会長賞



千塚小学校6年 河野もな

優秀

山梨放送賞



白根百田小学校5年 小野達哉

優秀

NHK 甲府放送局長賞



竜王小学校3年 藤本琴美

優秀

青少年育成
山梨県民会議会長賞



一宮中学校1年 上田葉月

優秀

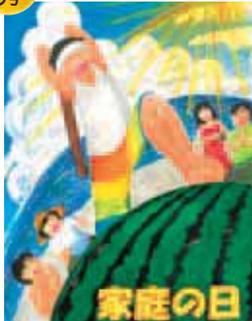
青少年育成
山梨県民会議会長賞



上条中学校2年 藤原有紗

優秀

山梨日日新聞社賞



河口湖南中学校3年 森校士

優秀

テレビ山梨社長賞



塩山南小学校4年 山元翔太

佳作

青少年育成山梨県民会議会長賞

田富小学校	1年	森	羽衣子
小笠原小学校	2年	シェパード	茉耶
石和東小学校	3年	北村	奏良
若草小学校	4年	望月	理加
小立小学校	5年	古屋	奈保
船津小学校	6年	中村	佳永
甲府市立西中学校	1年	岡部	志保
山梨学院大学附属中学校	1年	櫻林	銀河
山梨英和中学校	2年	川口	碧
甲府市立東中学校	3年	長田	莉奈

「インターネット・スマートフォンの安全利用」の講師を養成

いま、スマートフォンの急激な普及に伴い、保護者が危険性を認識せずに買い与えたり、児童・生徒が使用したりして、トラブルに巻き込まれるなどの問題が起こっています。

そこで県民会議は、スマートフォン等についての最新の知識や児童・生徒および保護者への指導方法についての研修会を開催し、受講者が各地域で講師となって普及啓発活動を進めてもらうことになりました。



受講した小中学校の先生方と会場風景(写真)

講師依頼については、県民会議又は市町村民会議事務局までお問い合わせください。

平成25年度「少年の主張」山梨県大会

「少年の主張」山梨県大会は、本県の中学生が物事を論理的に考え、自らの主張を正しく理解してもらおう力などを身につける契機となるよう、毎年開催しています。今年も県下24校の中学生から466点の応募があり、その中から原稿審査で選ばれた15名

の中学生が、8月24日に県立青少年センターで素晴らしい意見を発表しました。最優秀賞に選ばれたあけぼの支援学校中学部2年飯久保采佳さんは、国立青少年教育振興機構が主催する全国大会へ出場し、奨励賞を受賞しました。



大会で発表した中学生と審査員のみなさま

大会結果

最優秀賞 (山梨県教育長賞)	「伝える」と「つながる」	飯久保 采 佳	あけぼの支援学校中学部2年
優秀賞 (山梨日日新聞社賞)	行動の原点	小 平 守 莉	山梨大学教育人間科学部 附属中学校1年
優秀賞 (NHK 甲府放送局長賞)	ブレない自分に	篠 原 健 志	韮崎東中学校3年
優秀賞 (山梨放送賞)	飛べ！ドクターヘリ	伊 従 優 里	山梨南中学校3年
優秀賞 (テレビ山梨社長賞)	未来へつながる私の一歩	久津間 未 羽	山梨英和中学校2年
優秀賞 (青少年育成 山梨県民会議会長賞)	生きること	阿 部 愛 海	玉穂中学校3年
優秀賞 (")	言葉から生まれるもの	磯 玲 子	山梨学院大学附属中学校3年
優秀賞 (")	素直な心でありがとう	衣 川 海 星	塩山中学校3年
優秀賞 (")	「伝える」ということについて	河 野 ひより	吉田中学校3年
優秀賞 (")	私の夢	小 林 優 心	駿台甲府中学校3年
優秀賞 (")	今、伝えたいこと	清 水 真 実	敷島中学校3年
優秀賞 (")	「まだまだこれから」	津 幡 愛 莉	上野原中学校2年
優秀賞 (")	私の夢	手 塚 主 浩	塩山中学校3年
優秀賞 (")	思い一つで人生は変わる	土 橋 祐 太	増穂中学校2年
優秀賞 (")	未来へのメッセージ	平 本 真理子	駿台甲府中学校3年



(写真上)「少年の主張」を発表する生徒
(写真中) 真剣に発表を聞く生徒たち
(写真下) 会場の様子



平成25年度「少年の主張」山梨県大会最優秀賞 第35回少年の主張全国大会奨励賞受賞



「伝える」と「つながる」

あけぼの支援学校 中学部 2年 飯久保 采佳

「ディズニー サービスの神様が教えてくれたこと。」
私が読んで、感激した本です。私は、ディズニーランドが大好きでよく行くのですが、いつも驚くことは、その、サービスの徹底ぶりです。車椅子の私が家族と行っても、困ることはほとんどないのです。そんなディズニーに興味があり、4月にこの本を読んで、私はとても驚きました。

手術をしなければ命が続かない、ベッドに寝たきりの少年を、憧れのディズニーランドに連れて行きたい。そんな母親の思いが一本の電話をかけさせ、キャスト全員が協力し、夢を叶えたという話が載っていたからです。ベッドに寝ている状態でディズニーランドに行き、一体何ができるといえるのでしょうか？想像もできませんでした。

しかし、キャスト達は、可能なアトラクション、食事などの計画を立て、「夢」を現実にしました。

私が一番すごいと感じたのは、母親の行動です。「無理だ」とあきらめず、ディズニーランドに相談を試みた、その行動がなければ、何も始まらなかったのですから。

次に、受け入れを決めたディズニーランドと実際に対応したキャスト達。利益のことだけを考えたら、とてもできません。相手のことを本気で考えてサービスを行えば目には見えない「サービスの神様」が現れて、お客さんとキャスト、両方の夢を叶えてくれる。そんなディズニーの精神に、私はとても感動しました。そして、この感動を誰かに伝えたい。そう思い、私は今ここにいます。

「相手のことを本気で考える。」その大切さは、車椅子に乗っていると痛いほど感じます。買い物で車椅子に乗ったお年寄りを見かけます。その車椅子に傷があると、押す人が不注意でぶつけているのではと、思います。また、段差を無理に押ししているのを見ると、「乗り心地がとても悪いのに」と、感じます。

お年寄りといえば、学校で驚く話を聞きました。去年のデータでは、全人口の24%ほど、12年後には、28%、3,500万人が高齢者となるそうです。私たちが20代半ばになる頃、多くの高齢者を支える社会がやってきます。

そこで、私には、私達には、何ができるのか。そんなことを考えるようになりました。

車椅子の私に、できることなどないのではないのでしょうか。でも、無理だとあきらめたら何も始まりません。

まずは、声を上げることができると思います。車椅子を知っている者として、決してでたらめな介助ではない、やさしさを持った、温かい介助をしてほしい。そう強く思います。そのために、工夫する点、注意してほしい点を、私は伝えることができます。介助に対してあれこれと注文をつけ、相手が嫌な気持ちになったら申し訳ない、そんな気持ちの人も多いはず。もちろん私も。でも、何も言わなければ、お互いの理解にはつながりません。

お互いの理解へのきっかけとして、私は、多くの世代の人達と交流をしたいです。私達の学校では、毎年、地域の老人会との交流があり、校内でも、小・中・高等部が一緒にいるので、とても関わりが強いのです。たとえ、言葉が話せなくても、友達が困っていれば、視線や身振りで伝える生徒もいます。それにより、チームワークのような形で、支え合い、日々を過ごしているのです。

社会でも同じだと思います。気持ちを「伝える」ことで、人は「つながる」。「伝える」勇気を持って、人と「つながろう」とする。ディズニーランドに電話をかけた母親の勇気と、そこから生まれた奇跡のように、私も小さな勇気を大切に、人とつながろう、また、誰かと誰かをつなぐ人になりたい。そう思っています。

「青少年の非行・被害防止県民大会」開催～講演「ネット社会の大人の役割」～

平成25年7月12日、山梨県青少年総合対策本部（本部長 横内正明知事）との共催により、「きびしさとやさしさで摘む 非行の芽」をスローガンに、学校職員、保護者、青少年育成関係者など約450名が参加する中で開催しました。

大会では、山梨県青少年健全育成成功労者表彰（知事表彰）青少年による意見発表、群馬大学名誉教授の下田博次氏による「ネット社会の大人の役割」と題した講演を行いました。



知事表彰受賞者と意見発表をした生徒（写真）

山梨県青少年健全育成成功労者表彰受賞者

石橋 浩二様（青少年育成甲斐市民会議）
保坂 良住様（南アルプス市青少年育成カウンセラー）
森川 友美子様（上野原バレーボールスポーツ少年団代表指導者）

子どもクラブ23自治会参加！「ドッジボール大会」

中央市青少年育成カウンセラー

原田 廣明

第1回【中央市子どもクラブ親睦ドッジボール大会】が夏休みに実施されました。伝統的に行われてきた「親睦球技大会」、ソフトボールとミニソフトバレーボールでしたが、年度を越えるにあたり、次第に各自治会からの参加チームが激減の一途を辿りました。事務局としても役員に参加を呼び掛けたりしました。しかし、その努力も報われずとうとうこの種目を断念するに至りました。地域の子ども達が夏休みと一緒に参加して親睦を図る種目は何が適切なのかをアンケートをとるなどして意見を収集し、長い時間をかけて検討してきました。

その結果、特別な準備も必要なく低学年から高学年までの子ども達が一緒になって楽しく汗を流すことができるという観点から「ドッジボール」が浮上してきました。



市内6校の小学校は学校でも授業や休み時間を利用して、実際に楽しく遊んでいるという声もあり、事務局としても役員に了解をとり、粛々とドッジボールモードに入りました。

しかし、ルールや審判の問題も噴出。近隣の市町村に問い合わせたりもしました。奔走の結果、敷島地区で実施していることを知り、要項を取り寄せ勉強しました。審判の推進委員とは夜10時まで2回模擬練習を行いました。その結果、なんと23自治会から19チームもの参加がありました。体育館から湧き上がる親子の歓声がなんと心地良かったことが、事務局としてもやって良かったと心から思いました。次年度も参加チームが増えることを祈り、裏方に徹する所存です。

シリーズ 育てよう青少年の主体的な活動

子ども・若者の底力を信じて

子どもや若者が自主的に取り組む社会体験や自然活動などを紹介します。

～地域で育つ子どもたち～

菫崎市青少年育成カウンセラー

加藤 瑞穂

菫崎市では、青少年健全育成事業として平成21年度より「通学合宿」を開催してきましたが、今年度は新たに自然豊かな甘利山で「生きる力」を育成することを目的としてトリルキャンプ事業を開催しました。

7月の三連休、不安と期待に満ちた小学生24名が甘利山に到着してキャンプは始まりました。3日間を過ごす仲間たちとアイスブレッキングやバーベキューで少しずつ打ち解け、木工・工作実習や防災・減災学習、更には自然環境学習など楽しいことだけでなく、仲間と協力したり、自分で考えたりと学校とはひと味違う環境で様々な体験や学習を行いました。もちろん毎日の食事も自分たちで準備から片付けまで行います。日頃、便利で快適な生活に慣れている子どもたちにとって、かなり不便

を感じる3日間となりましたが、与えられた環境に馴染み、その中で楽しみを見つけている子どもたちに順応性の高さを感じるとも



に、「生きる力」とは全ての子どもたちに備わっているもので、それを引き出して伸ばすことが私達大人の役割だと改めて考えさせられました。

また、公民館関係者をはじめ大勢の地域住民の皆さまが協力し見守ってくれました。キャンプを通して子どもたちの育成に関わることで、地域コミュニティの向上と青少年育成への理解と関心が高まり、地域活動の推進に繋がることが期待されています。

これからも「子どもたちは地域で育てる」を基本に、様々な事業を企画していきたいと考えています。



わたしは県民会議へ期待します！

特定非営利活動法人 こだ 理事長 田川道啓

「ちょっと困っている」を聞き逃さない ネットワークづくり



NPO 法人こだは、青少年育成山梨県民会議が今年度から始めた「青少年関係NPO法人等ネットワーク会議」に参加しています。これは、細かな地域の細かなニーズを知る団体を他の団体や行政と結びつけ、本県における青少年の健全育成への貢献を目的とするものです。私がこの会議に、NPO 法人などが活性化することで、本県の子どもを持つ家庭の「ちょっと困っている」に対応できることが増えるのではないかと、という期待を寄せています。

学校嫌いの「彼」が、私たちが学習支援と居場所づくりを兼ねて運営している「こだの勉強部屋」を偶然知ったのは2年前のこと。今では、こだがなかったら学校に行かない、と、私たちを心の支えにしてくれています。おこがましいのですが、私たちのこのサービスを求めている子は他にもきつといるはず。そして同じように、助けとなる活動に出会わずに、「ちょっと困っている」をいくつも重ねていってしまう家庭はとて多いことと思われま。でも、もし子どもや親が最近困っていることを気軽に話せて、一緒に困ってくれる人が近くにいたなら、そして助けが必要な場合には誰かを紹介してくれたなら、本当に困って苦しみを抱えこんでしまうことを防げるのではないのでしょうか。

そのためには、ネットワークがカタチだけでなく「想い」でつながっていることが必要です。あそこのだれだれさんはこういう人だからきつと力になってくれますよ、と紹介できたり、市民からの小さなニーズに対して行政と民間が「新しい公共」の概念で事業を行ったりすることができれば、山梨の青少年の健全育成に大きく貢献できるのではないかと考えています。

青少年育成山梨県民会議 会長 佐藤 進

「声かけ・あいさつ運動」の推進に向けて



青少年育成山梨県民会議活動の重点目標「声かけ・あいさつ運動」の推進は、明るく楽しい家庭の中で、夫婦が、親子が、兄弟姉妹が、お互いにおはよう！ありがとう！等々、そして1日の終わりのおやすみなさいの言葉を交わすことから始まります。将来の山梨を担う青少年の健全育成は挨拶のできる人材を育てることが基本になると思います。しかしながら大人の私達でさえしっかり挨拶しているとは言えない現実もあります。それにひきかえ集団登校の小学生は、それは見事に頭を下げて元気よく「おはようございます。行ってきます。」と、目を輝かせて通り過ぎて行きます。

気持ちの良い挨拶は人と人の親近感や地域の連帯感を深め、ふるさとへの愛着が増すばかりでなく、犯罪の起こりにくい地域環境浄化や安全安心な地域づくりの推進力ともなります。

さて、2020年夏季オリンピック東京招致演説で日本人の「おもてなし」の心が話題となりました。また、山梨県は観光客誘致にも力を入れています。いずれもしっかり心を込めて笑顔で挨拶することに尽きます。「声かけ・あいさつ運動」を活気溢れる県民運動として県下全域に展開する為には、私達大人が青少年の見本となるべき姿を実践する事が最も早道です。山梨県でも青少年育成は庁内各部局に関係し、その重要性から青少年総合対策本部を中心に全庁的な組織を設置し、行政施策を推進するとのことです。

県民運動の推進には県民会議と市町村民会議の連携・協力は不可欠です。市町村民会議はその地域に住む全ての人と青少年育成に関わる団体で組織しています。市町村民会議から市・町・村それぞれに代表が理事に選出され、県民会議が県民や市町村民会議により近い存在となる事を願っています。そして青少年育成山梨県民会議のリーダーシップの基、積極的な活動が推進される事を期待いたします。

☆ 新規会員募集 ☆

青少年育成山梨県民会議では、山梨の次代を担う青少年の健全な育成・非行防止の推進などを目的とした、県民運動に継続して取り組んでいます。

活動や趣旨にご賛同・ご協力いただける新規会員の方を募集しております。機関誌をご覧になっていただける皆様からも、是非、ご入会をお願いいたします。

■ 賛助会員

会費/個人・企業 年額1口 10,000円

■ 正会員

会費/個人 年額1口 2,000円
団体 年額1口 3,000円

- 何口でも結構です。
- 会員の皆さまには広報誌「やまなしの青少年」など、各種資料をお送りするとともに、総会資料にお名前を掲載させていただきます。その他に、賛助会員のみなさまは当広報誌にお名前を掲載いたします。
- 会費の納入方法などは事務局までお問い合わせください。

お問い合わせ先

青少年育成山梨県民会議事務局
〒400-0811 甲府市川田町 517
TEL:055-287-6415 FAX:055-237-5312

平成25年度青少年・青少年育成功労者等の表彰

7月12日開催の「青少年の非行・被害防止県民大会」に於いて、青少年・青少年育成功労者等の表彰式が行われ、善行表彰など個人13名、青少年育成3団体が表彰されました。

表彰者(個人)のみなさま

善行表彰 (青少年)	初鹿大輔 (甲府市)	甲府市青少年ジュニアリーダー
自主活動表彰 (青少年)	石岡真由美 (大月市)	紅富士太鼓
"	小俣溪和 (上野原市)	上野原高等学校
育成指導表彰 (青少年指導者)	佐藤昭久 (富士吉田市)	ボーイスカウト富士吉田第2団
"	地場洋子 (都留市)	ガールスカウト山梨県第10団
"	樋口正博 (甲府市)	湯田地区青少年育成推進協議会
"	山田輝夫 (北杜市)	白州町卓球スポーツ少年団
育成指導表彰 (育成功労者)	小田切千尋 (甲斐市)	青少年育成甲斐市民会議、 青少年育成甲斐市双葉地区民会議
"	手塚範幸 (山梨市)	青少年育成山梨市民会議
"	名取英雄 (南アルプス市)	青少年育成櫛形地区民会議
"	堀内三男 (昭和町)	青少年育成昭和町民会議、 昭和町青少年育成推進員会
"	吉村秀昭 (上野原市)	青少年育成上野原市民会議
"	渡邊光男 (西桂町)	西桂町スクールガード連絡会

表彰者(団体)のみなさま

育成指導表彰 (青少年育成団体)	おはなしのへやもも (笛吹市)	代表 馬場由美
"	ガールスカウト山梨県第6団 (富士吉田市)	団委員長 星野豊子
"	ボーイスカウト甲府第10団 (甲府市)	団委員長 土橋俊彦



受賞者のみなさま(写真)

賛助会員のみなさま

(敬称略・順不同)

個人会員

天野一	甲府市	種田一夫	甲府市
上矢智幸	笛吹市	辻英夫	甲斐市
大澤英二	甲府市	鶴田建次	甲府市
小澤誠	甲府市	苗村久美子	甲府市
小俣一彦	大月市	野口富美子	甲府市
笠井勲	甲府市	堀江清敬	甲府市
金森正男	大月市	望月久男	身延町
川添明	埼玉県岡本市	山田文夫	甲府市
久保寺孝男	甲府市	若尾明彦	甲府市
小池三千雄	甲府市	渡辺正	山梨市
志村一馬	南アルプス市		

法人会員

学校法人富士修紅学院	宏和建设(株)
(株)長田玉夫商会	サントリー酒類(株)白州蒸溜所
(株)吉字屋本店	清水工機(株)
(株)三愛印刷	都留信用組合
(株)サンニチ印刷	日東物産(株)
(株)テレビ山梨	富士観光開発(株)
(株)中村建設	HOYA(株)長坂事業所
(株)はくばく	山梨トヨタ自動車(株)
(株)早野組	(有)池川薬局
(株)藤二誠	(有)荻野造園

今年度役員

名誉会長	大澤英二	理事	野口英一
顧問	種田一夫	理事	畑真二
会長	山田文夫	理事	藤原一治
副会長	笠井勲	理事	平井始子
副会長	剣持武範	理事	堀内邦満
副会長	丸山嶺男	理事	小林欣一
副会長	依田茂己	監事	長田玉夫
副会長	渡辺真弓	監事	辻英夫
理事	斉藤至	総務委員会委員長	佐藤哲夫
理事	金丸康信	" 副委員長	武藤紀子
理事	川窪東海彦	青少年委員会委員長	山崎義雄
理事	久保田豊一	" 副委員長	露木淳司
理事	小泉明義	環境委員会委員長	樋口高子
理事	小林奈都夫	" 副委員長	永井清司
理事	小林博夫	広報委員会委員長	笠井勲
理事	露木淳司	" 副委員長	鷹野貴雄

編集後記

本誌「やまなしの青少年」は、山梨県民会議の広報誌として、県下の青少年健全育成に関する情報誌として、大きな役割を果たしてきたことを自負しております。

青少年を取り巻く諸問題は、社会状況による「教育の格差」や「若者の就職状況」を激変させ、スマートフォン等の急速な進展による「新たな犯罪」や「ネット依存」と呼ばれる問題も発生しています。当県民会議でも、それらへの取組の必要性を確認し、新たな事業を展開しています。

今年度から、当県民会議が社団法人から任意団体となりましたが、県民の皆さまからたくさんのご意見をいただき、さらに中身の濃い広報誌になるよう心がけていきたいと思っております。

(広報委員会 副委員長 鷹野貴雄)